



日本管楽合奏コンテスト

平成三十年十一月に東京都で行われた、第24回日本管楽合奏コンテストの全国大会に松商学園高校と、清水中学校の吹奏楽部が出場しました。両部の部長にコンテスト出場のご感想を伺いました。

松商学園高等学校 吹奏楽部
部長 田中 稀路

松商学園吹奏楽部の日本管楽合奏コンテストへの出場が決まったのは、2年ぶりです。現在の3年生はコンテストを経験していませんが、松商学園高校の吹奏楽部は、8月の文化祭で3年生が引退となるので、新体制で挑んだコンテストです。ですから、何もかもが初めてで演奏をつくりあげるまでにかかりの時間を費やしてきました。大会当日、初めての管楽ということもあり、皆かなり緊張していましたが、他校の演奏は本当にレベルが高く、刺激を受けるばかりでした。学べる部分も沢山あり、皆の技術をあげる力になりました。私達の出番となりましたが、演奏体型が複雑でしたが、



松商学園高等学校 吹奏楽部

セッティングの練習も積み重ねてきたので、本番では素早く準備をすることができました。演奏では、挑戦したことのない曲調の曲でしたが、素晴らしいホールで満足のいく演奏をすることができ、これからのためにも本当に良い経験になりました。今後この経験を生かし一

生懸命頑張っていきたいので応援よろしくお願いします。

清水中学校 吹奏楽部

部長 降旗 光優

私たち清水中学校吹奏楽部は、十一月四日に東京で行われた、日本管楽合奏コンテスト中学校A部門に出場しました。

全国大会という大きな大会に出場するのは初めてで、緊張と不安が大きかったです。が、ここまで連れてきて下さった先生、保護者の方々や応援して下さいました。感謝の気持ちを持って演奏することができました。結果は「優秀賞」でした。

二十三人の素晴らしい仲間たちと、生涯忘れることのない輝くような思い出となりました。



清水中学校 吹奏楽部

第三地区の若い力!

第三地区出身で、この度、槍ヶ岳山荘の四代目に就任された穂苅大輔さんに、仕事への意気込みをお伺いしました。



穂苅 大輔

山小屋の跡を継ぐにあたって

「地元は長野の松本だよ。生まれは東京なんだけどね。」19歳で大学進学のため松本を離れ、東京で新しくできた友人に自己紹介をする際、私はよくこのように言い方をしていた。大学の友人は関東圏出身の者が多く、『田舎』の長野出身者であることを気恥ずかしく感じていた。私だ。一応、私は生まれてから3歳までは東京に住んでいた。

しかし大学卒業後、東京での8年間の会社員生活を経て、2017年に『田舎』である松本に戻ってきた。父の跡を継ぎ、槍ヶ岳山荘の四代目となるためだ。東京での生活に未練がない訳ではな

かった。それでも松本に帰る決断をしたのは、山小屋の四代目という仕事に魅力を感じたからだ。

山小屋の仕事は朝が早く、他のスタッフと寝食を共にしながら働かなくてはならない。標高3,180mの槍ヶ岳を、シーズン中は何度も往復することになる。会社員時代は仕事中にパソコンより重いものを持ったことはなかったが、山では登山道の整備など力仕事も多い。体力的にきつい仕事ではあるが、曾祖父から代々続く山小屋を、自分が受け継いで守っていくんだという使命感の方が強い。東京の大企業で働くよりも、やりがいのある仕事だと思ってる。

今はもう、『田舎』に対する気恥ずかしさは一切感じない。むしろ世界に誇れる日本の名峰・槍ヶ岳を、そして地元松本の魅力を、より多くの人に知ってもらいたいと思う。



新成人おめでとう!

一月十三日(日)松本市の成人式が行われました。今年、第三地区で成人された方々の中から、3名の方々に心境や抱負をお聞きしました。

桑原 加伊(四ツ谷町)

私は二年前から愛知の大学で、博物館で働く学芸員としての勉強をしてきました。その二年間の勉強のおかげで、今では学芸員や博物館についての知識をたくさんつけることが出来ました。これからの抱負としては、二年間であまり行くことが出来なかった多くの博物館に行きたいと思えます。そこで今までの勉強から得た知識を生かして、さらに学芸員という仕事や博物館について学んでいきたいと思えました。

平林 風雅(四ツ谷東)

二十歳を迎え、世間の人から大人と言われる立場になりました。正直言って二十歳になったという自覚はあまりありません。二十歳になると十代に比べ、様々なことが自分で選択可能になり、自由度が広がる反面、責任も伴うこととなります。そのことを念頭に置き、徐々に大人としての自覚を持っていきたいです。そして、何よりこの日を迎

太田 もも(四ツ谷東)

成人式という人生の節目を迎え、喜びとともにこれから社会の仲間入りをしていくことへの不安も感じています。私は現在、親元を離れ、名古屋の大学へ通っています。そこで得られた新たな経験や学びを通して、成人としての自覚を常に忘れず、責任ある行動と人を思いやる心を持つて、まだまだ未熟者ですが社会に貢献できる自立した人間になれるよう努力していきたいです。

また、私たちがこの日を迎えられるのは、今まで温かく育み、支えてくれた数多くの方々の存在があつてのことだと思えます。成人式を迎えた今、改めて感謝申し上げます。



お正月用フラワーアレンジメント講座



しめ縄・お飾り講座



年末の公民館講座

年末年始に向けて公民館で行われた講座の様子です。

湧き水

山形村産の長いもをたくさん頂いた。長いもは、煮ても焼いても揚げてても生で食べても美味しい。調理法がいろいろあつてありがたい。さて、何を作ろうか?

昨年同級会を思い出した。安曇野の中学校を卒業して約半世紀。進学を機に故郷を離れ、今は関東に居を構えている旧友の『芋汁の味付けは醤油派?それとも味噌派?』その問いかけに座が盛り上がった。『松本平での芋汁談義には生卵を入れるか入れないかはあつても、醤油か味噌は無いよ』『すり鉢でするか、すらないかもあるよ』『味噌味も美味しいからためして』『味噌はどの段階で入れるの?』『刻んで味噌と梅干で和えても美味しいね』やがて話は、漬け物に移っていった。食べ物の話は尽きることがなく、笑顔がはじけてくる。ずっしり重い長いもを手にとつて、やっぱり芋汁は醤油ズラ...と思つてしまった。(小口希志子)

